

IDK、災害時の備蓄用マスク発売 保管スペース半減

(2020/10/16 05:00)



IDKが発売した災害時備蓄用マスク

【水戸】IDK（茨城県つくばみらい市、飯塚向平社長、0297・20・7800）は、省スペースで保管できる災害時の備蓄用不織布マスクを発売した。真空パッケージ内に封入することで一般的なパッケージに比べ約半分のスペースで保管できる。5年間の品質保証付き。月内に出荷を始める。定価は10枚入りで598円（消費税抜き）。年間200万枚の販売を目指す。

地方自治体など官公庁向けの備蓄用、民間企業や一般家庭向けの防災用としての需要を見込む。新型コロナウイルス感染症の影響でマスクが生活必需品となる中、災害時でも安心して使えるマスクを提案する。

一般的な不織布のマスクだが、耳ひもが太めで着脱しやすく丈夫なタイプを採用した。包装資材にはアルミニウム蒸着膜を付けたプラスチックフィルムを採用し、湿気や紫外線による生地への傷みと変色を防ぐ。マスクは中国から調達し、国内で検品とパッケージングを行う。同社は医療機関向けシステムの販売のほか、健康食品や日用品の卸売りなどを手がける。